第六十七巻　第十二号　目次

内山秀夫　教授　退職記念号

序　倉沢康一郎

ドイツ民訴法八八八条不代替的作為義務の執行をめぐる法改正提案
——ドイツ強制執行法改正作業グループ第二次報告書を中心に——　石川明

二〇〇一年のオーストラリア
——人種・民族をこえたアジアとの共存を求めて——　関根政美

戦後日本社会の価値意識の変化
——余暇と自己実現を中心に——　有末賢

自由主義政治理論における権利の問題
ソールズベリのジョンとアリストテレス政治的徳性（*virtus*）をめぐって——　萬田悦生

『政治的なものの概念』の脚注
——「自由主義を超える地平」をめぐって——　柴田平三郎

衆議院議員の補充の現状と課題　中道寿一

ユートピアの終焉？
——ユートピアの再定義に向けて——　市川太一

小河滋次郎の行刑思想
——刑法改正案をめぐって——　菊池理夫

福沢諭吉とH・スペンサー『第一原理』
——第二部第一・二・三章を読む——　小野修三

新しい社会運動とハーバーマス・オッフェのコンフリクト理論
——社会統合とシステム統合の視点から——　安西敏三

協調と対立の構図
——英系カナタと仏系カナタの関係とカナダ政治——　丸山正次

ファシズムとデカダンス
——ショルシュ・ウァロワについての一考察——　加藤普章

冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策
——中東欧の位置つけを主軸に——　深澤民司

ポスト共産主義と民主化の比較政治研究
——『東中欧の民主化の構造』再考——　小澤治子

イギリスの労使関係における政治的位相の変容　川原彰

近代日本の二重規範
——性と家族をめぐる諸相——　佐次清隆之

内山秀夫教授略歴・主要業績　菅野聡美